

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：向丘はなみずき保育園	種別：保育所
代表者氏名：矢外 泰子	定員（利用人数）： 120名
所在地：〒216-0024 川崎市宮前区南平台4-2	
TEL：044-750-0150	ホームページ： http://www.fujimiplaza.com/hanamizuki
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人子の神福祉会	
職員数	常勤職員： 19名 非常勤職員 19名
専門職員	保育士 28名
	看護師 3名
施設・設備の概要	保育室6、プレイルーム

③理念・基本方針

<保育理念>

1. 保護者と協力しながら、子ども一人ひとりの主体性を大切にしていく
2. 地域の人々との交流を図り、子育て支援を通じて、福祉の役割を担う

<保育方針>

1. 個性を受けとめ、安心して過ごせる保育環境を整備する
2. 地域の人々と関わる中で、集団行動のマナーを培う
3. 一人ひとりの保護者の思いを受けとめ、支援する
4. 発達に応じた活動が出来るよう環境を整える
5. 大人や子どもとの関わりの中で信頼関係をつくる
6. 人の話を聞いたり、自分の思いを伝える中で、考える力を育てる

<保育目標>

1. 心身ともに健康な子
2. 人を思いやる子
3. 感性豊かな子

④施設・事業所の特徴的な取組

○子どもたちの主体性を尊重した保育に取り組んでいる。子どもたちの発達に応じて、絵本コーナーや廃材コーナー、制作コーナー、自然物コーナーなどを用意している。子どもたちが興味を持てるコーナーを、クラスごとに工夫して、コーナー遊びができるよう環境を整えている。主体的遊びの前には、サークルタイムとして、何をやりたいか子どもたちに意見を聞いている。朝・夕の保育士が少ない時間は、隣のクラスにも声をかけ、保育士同士が協力し合って、それぞれの遊びに目が届くようにしている。子どもたちは自分がどのグループにいるかを知らせるため、自分の顔が印刷されたマグネットをその場に貼り、どこにいるかわかるようにしている。

○子どもたちの食育への取り組みを大切にしている。調理は外部業者に委託しているが、旬のものを取り入れて調理をしてくれている。子どもたちは野菜作りを行い、各クラスで何を育てるか考え、種から育て、収穫している。今年はスイカを作ったクラスがあり、皆で食べたり、スイカのゼリーを作ったりしている。また、ジャガイモ掘りを体験し、ジャガイモパーティを開き、ジャガイモ餅やポテトチップスなどを作っている。毎年、味噌作りにも挑戦している。今年は石臼で大豆を引き、黄な粉を作って楽しんでいる。子どもたちは食への感謝の気持ちを感じながら、食育の取り組みを楽しみにしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2025年6月4日（契約日）～ 2026年2月12日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回目（2020年度）

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○向丘はなみずき保育園は、定員120名の園で、1階に0～2歳の乳児クラス、2階に3～5歳の幼児クラスがある。みんなが集まる大きなお家として、子どもたちの主体性を尊重した保育に組み、食育活動や異年齢交流を大切にして、子どもたちの日々の成長を支援している。

○子どもの発達状況を保育士全員が把握し、その子どもに応じた関わりがもてるようにしている。支援が必要な子への対応は、療育センターでの状況を参考にしながら支援している。園庭の鉄棒は普段収納していたが、子どもたちが保管場所に行き、かえって危険なため、園庭に鉄棒を常設している。現在、子どもたちは園庭で自由に鉄棒で遊んでいる。

○0歳児の離乳食は、後期もしくは完了期に入っているが、まだミルクを食後に飲む子どももいる。ミルクは保育士が抱っこして、優しく話しかけながら飲ませている。保育士との愛着関係を築きながら保育している。また、子どもの表情をよく確認しながら食事を支援している。3歳からは、箸の持ち方やお皿のおさえ方などを正しく教えている。トイレトレーニングも、自分で行こうとする気持ちが見られた時に、トイレに行くようにしている。子どもの主体性を重視して、保育士から誘うことを控えている。

○0歳児の保育では、安全を確認し、言葉かけを多くし、コミュニケーションを多く取って愛着関係を築いている。子どもの月齢に配慮しながら、その子どもがやりたいことに目を向け、子どもの遊びに寄り添っている。子どものやりたいことができた時には、一緒に喜び、成長を確認している。子どもの活動の様子は、コドモン（保育関係のICTシステム）で保護者に知らせ、成長の喜びを共有している。

○1、2歳児の保育では、健康に注意が必要な時期となり、毎日の体調の変化に気を配っている。また、いやいや期に入り、気持ちを受け止めながら、子どもが興味、関心を持つことができる遊びを、一緒に探していくようにしている。靴下を履くなど、できないことにも、自分でやりたい気持ちが芽生えてくるため、保育士は頑張ろうねと見守りつつ、難しいところはさりげなく手伝うようにしている。できた時には、一緒に喜んでいる。

○2歳から3歳に上がると、クラスも2階になり、保育士の配置数も少なくなるため、前年度より少人数のグループに分かれて2階の生活に慣れるよう支援している。4、5歳児にあこがれを持ち、真似をしたりしながら成長していく姿が見られている。4歳児のクラスは、友だちと関わりを持ち、相手の気持ちを考えられるようにしている。5歳になると自分たちで考え、課題を解決していくことができるよ

うになっている。廃材を使って作った鯉のぼりを皆で合わせ、大きな鯉のぼりを作ったりしている。また、鯉のぼりをお神輿にして遊んだり、段ボールで兜を作ったりと、皆で考えて遊びを発展させている。

○昼食は、11:45から12:35までの間に提供している。子どもたちは自分の好きな時間に、自分の食べられる量を伝えて食事をしている。最後の子どもの食事が終わると、テーブルを拭き、床掃除を行い、午睡の準備をしている。子どもたちは、自分の食べられる量がわかってきて、残食が少なくなってきた。

○家庭との連絡は、乳児はコドモンを通して、毎日連絡を取り合いながら保育にあたっている。降園の際には、できるだけ保護者とコミュニケーションを取り、子どもの成長を共有し、信頼関係を深めるよう努めている。幼児はドキュメンテーションにより、子どもの状況を保護者に確認してもらっている。乳児クラスは保育参観、幼児クラスは保育参加を行い、日ごろの園での子どもの様子を見てもらったり、体験してもらったりしている。定期的に保護者との面談も行っている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

5年前の受審時と比較し、職員や園の雰囲気がとても良くなったとの評価を受け、嬉しく思います。主体性の保育に取り組み始めて、話し合いを重ね、職員の意識も変わり、子どもを中心として子どものやる気を促し見守っていく保育の流れも出来てきました。子ども達の興味関心も広がり、自主性も見られるようになってきています。

次年度は、園開設10年目に入ります。多様性の時代、保育を取りまく環境や保育のニーズ・職員の業務も変化してきています。保護者からのアンケートにて高評価を頂いた半面様々な意見も頂きました。職員で熟慮し見直し出来るところから改善していきたいと思えます。常に社会の状況を注視し、アップデートを重ね、子どもにとっての最善の利益を常に考え、大切にしながら、職員一丸となってより良い保育の質の向上に向けて今後も努力していきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり